

事例報告の要約

分科会：街巡り(歴史ガイド)

団体名(会員数) NPO法人 歩かんね太宰府 (40名)	(団体の住所/連絡先) 〒818-0125 太宰府市五条3丁目1-1 太宰府市NPO・ボランティア支援センター内		
	(電話)	(FAX)	(活動範囲)
	092-918-3633	092-918-3644	太宰府市内および近隣地域
事例報告者	理事長 李尾 幹雄		
(タイトル) 歩かんね太宰府 ～気持ちよかやん 風も人も～			
(設立の経緯) 「歩かんね太宰府」の設立と、経緯をご紹介します。 太宰府には観光協会があります。あちこちにコンベンション協会やコンベンションビューローと呼ばれる観光地を案内する施設はありますが、遠方からの観光客をガイドする制度はありませんでした。 また、多くの史跡があります。財団法人古都太宰府保存会という古くから権威のある団体がありますが、史跡の保存・管理はしているものの、観光ガイドはしておりません。 太宰府には年間700万人の方が訪れます。ほとんど天満宮目当てにおいでになると思いますが、誰が案内するのかな？と考えたとき 誰もいませんでした。そこで、有志が集まって2007年(H19)5月、自主的な集まりとして「歩かんね太宰府実行委員会」を立ち上げました。 タイトルの「歩かんね太宰府 ～気持ちよかやん 風も人も～」というのは、太宰府政庁の場所が パワースポットとして最近有名になってきているようで、他所からこられた方が 政庁の入り口に立つと、“風が違う、空気が違う、色が違う”と言われるそうです。これを知った我々のメンバー(若者)が、サブタイトルとして「～気持ちよかやん 風も人も～」を想いつきました。 さてスタートの日は、太宰府の秋の行事「古都の光」(神幸式が9月22日から始まって太鼓橋に千燈明が灯される25日まで)にあわせて、9月25日を「朱雀大路を歩くコース」として、まち歩きを始めました。 その後、春(3～6月)・秋(9～12月)の年間2シーズン制を続け、2009年8月17日「NPO法人 歩かんね太宰府」を設立し、年間の参加者は約1,100人にも達し今に至っております。			
(活動方針) 1、「まるごと博物館」を目指す太宰府の良さを、来訪者に知ってもらう。 2、コースを手作りする過程を楽しみ、地域とのつながりを持つ。 3、参加者と話を交わし、交流を楽しむ。 私たちが目指すのは、太宰府の新しいまち歩きです。他に何かもつとないのか、我々の目で見つけ出し新しいコースを作ろうじゃないか という趣旨でやっています。 例えば、天満宮の裏手には最澄が登ったといわれる宝満山があります。また清少納言の父親の清原元輔がきて立派な歌をのこした竈門(かまど)山、そのすこし裏手にいけば少弐の居城があったといわれる有智山の城跡、また、その下のほうには足利尊氏が都から追放されて訪れた原八坊など、太宰府の隠れた場所が沢山あります。人気の高い、北谷の農家の鶏ご飯を食べて地元の方とふれあうコースなど、史跡・天満宮や観世音寺の国宝の鐘などだけでなく、その周辺で、古く太宰府を訪れた歴史上の人物の物語 や 歌・文学などもコースに採り入れ、参加者と歩きながら楽しく語らうことを目標としています。			
(活動の内容) 1、過去実施したコースを基本に、コース資料や管理表の手作り コースの数は、おおよそ17で回数にして40回くらいです。コース定員は12名ですが、15名となることもあります。全て日にち限定の予約制をとっており、参加者一人あたり 500円をいただいています。 まち歩きが3月から始まるまでのシーズンオフの間に、コースの原案作成を行ないます。コースのタイトル、内容、かかる時間、かかる経費、責任者・担当決めなど細かい管理表を作っております。 2、コース担当者と分担の取り決めや、コース実施の細かい打ち合わせと会議 コース一覧表ができれば、例会で全員に図りお互いの分担を確認します。さらに必要なお金、資料、物などの準備に入ります。毎週火曜日がその準備の日となっております。 コースの責任者は、ガイドの前日 必要なものを整理して午後ずーと待機をしてもらいます。 というのは、我々は事務局を持ちません。天候不順等で前日の夕方にはキャンセルという事態もおこりますので、携帯を持って待機し、当日の参加者人数の確認などをしてもらいます。			

(活動の成果)

アンケートの徹底分析を行い活動成果のチェックを実施しています。

参加者全員に分厚く細かいアンケート用紙を配り、回答をしてもらっています。例えば、どこでこのコースの実施を知りましたか？と、いった項目も設けております。これらアンケートを全部集約して、その結果に基づいてチラシの配布場所等も決めています。

アンケートのなかで、非常に大事な点は参加者の満足度です。当日配って帰りに回収していますので、悪くは書きにくいのかも知れませんが、88%の方が満足と答えていただいています。しかし時には厳しい意見がくることもあります。それが本当のアンケートだと思って大事にしています。

アンケート結果は徹底分析をして、次回の打ち合わせ会で議論することとしています。これが今日に至るまで人気を維持できている源だと思います。

(今後の課題)

1、常に新しいコースの開発が必要である。

今までやってきて、有難いことに参加者の 6割の方がリピーターです。

何日か前に私が案内した人がまた見えたり、10回以上参加する方、中には17コース全てに参加された方もおられます。大変有難いことですが、そういうリピーターが増えているのには、やはり新コースの開発があると思います。魅力あるコースの開発は欠かせません。

2、一人できちんとガイドできるボランティアを増やしたい。

コース定員は12名ですが、15名くらいに増やし、一人できちんとガイドできる人数が増えることが必要です。また、これまで定員オーバーでお断りしたお客様の名前を控えておいて、次の年にお誘いすることも考えなければ、と思います。

3、活動資金のスポンサーを見つけること。

去年は、まち歩きガイドの外に完全手作りの 2万5千分の1の縮尺の地図を作りました。これは、他所から一人で来られた方でも歩いて回れるようにするためのもので、トイレの場所なども書き込んでいます。これらを作るには、作成費がかかります。何とか費用を捻出する必要があります。

私どもは小学校 6年生を対象としたガイドの子ども検定をやっており、丁度 市役所の教育長の「応援する」という確約をいただいたところで、これから具体的に内容を詰める段階にきています。

この検定事業をするということで補助金の申請をし、今年には日本財団の補助金をいただいてやっております。来年も大丈夫だろうと思いますが、その次は見えてきません。

皆さん方のところもそうだと思いますが、いろいろな活動をするには資金の調達は、大事な課題だと思います。

事例報告の要約

分科会：街巡り(歴史ガイド)

団体名(会員数) 宗像歴史観光ボランティアの会 (46名)	(団体の住所/連絡先) 〒811-3503 宗像市牟田尻1726-1 宗像観光協会内		
	(電話) 0940-62-3922	(FAX) 0940-62-3921	(活動範囲) 宗像市内およびその周辺
事例報告者	代表 松元 謙一		

(タイトル) 会の活動報告

(宗像市の紹介)

ご紹介を受けました宗像歴史観光ボランティアの会の松元です。
日頃ガイドをしていて、宗像の読み方、宗像市についても知っている方がかなり少ないということで、まず宗像市の紹介をします。
宗像市は政令都市の福岡市と北九州市のちょうど中間にあります。JR鹿児島本線や国道3号線も通っており、交通の要所でもあり、福岡・北九州市へもJRで30分と非常に便利なところでもあります。
宗像市は2005年(平成17年)、平成の市町村合併で宗像郡玄海町、大島村と合併し、新しい宗像市が誕生しました。市の真ん中をJRが走っており、東郷駅・赤間駅・教育大前駅と3つの駅がありますが、このJR鹿児島本線の沿線に90%の住宅が密集しています。
宗像市には貴重な文化財や美しい景観があります。
最近注目されてきたのが、宗像・沖ノ島と世界遺産群です。4世紀後半から600年にわたって大和王権による国家祭祀がおこなわれた沖ノ島からは、海の正倉院と呼ばれるにふさわしい遺物が出土し、8万点に及ぶ国宝指定がなされています。その他、新原・奴山古墳群や宮地嶽神社があります。
また最近、市のど真ん中3万1千坪の空き地から弥生時代の集落と古墳時代の倉庫群跡が出土した田熊石畑遺跡は、調査の結果、弥生時代の墓から15本の武器型青銅器が見つかり、非常に貴重なものとして国の指定史跡になりました。
この外にも、玄界灘に面したところには、宗像大社、鎮国寺、さつき松原などの風光明媚な文化財や観光スポットがあります。

(設立の経緯)

平成17年に誕生した新しい宗像市を、市の内外の人に知ってもらい活性化させ後世に引き継ぐため教育委員会、市民フォーラム、観光協会で宗像歴史観光ボランティア養成講座が開かれました。その講座修了生によって翌年の平成18年、宗像歴史観光ボランティアの会が結成されました。その後5回にわたり養成講座を続け、現在の会員は46名で、うち6名の幹事で代表、事務局、ガイド、研修、ホームページ、会計などの役割を担っています。

(活動の実態)

会の活動としては、会員同士の例会を毎月第4土曜日、幹事会は第3木曜日に行なっており、毎月会う機会を作っております。会へ出席できる人は全体の6割ほどで、出て来れない人には、ホームページで議事録や結果を知らせるようにしています。

主な活動内容は、定期ガイド、ツアーガイド、個人・団体ガイドです。

1、定期ガイド

定期ガイドは、春の3月末から4月中旬に鎮国寺の境内や文化財、桜のガイドと、スタンプラリーを行なっています。秋は、11月1日から22日に宗像大社の境内で行なわれる西日本菊花大会にあわせて境内の神宝館のガイドを行なっています。この春・秋の期間中の無料ガイドで、約2,500人を案内しています。この他には、漁港の鐘崎で5月に魚祭り、10月のみあれ祭りでガイドをやっております。

2、ツアーガイド

宗像を訪れる観光バス等の「ツアーガイド」は、有料でやっておりますが、宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に指定されて、昨年までの500人から今年は急に10倍にお客様が増える見通しとなっております。

3、個人・団体ガイド

個人・団体ガイドというのは、数人のグループや老人会、公民館などの歴史講座でのガイド依頼に基づき行なうものですが、場所的には、唐津街道などを案内しています。

今年初めてのケースですが、学校の依頼で小学6年生の地域学習の授業の手伝いで、江戸時代の宗像の唐津街道、当時の福岡藩の有様について現地を案内したりする授業を行いました。

4、宗像市や関係団体への協力体制

(1)「宗像・沖ノ島と関連遺産市民の会」を作り、理事を1名、沖ノ島を保存・管理する保存管理ワーキングに1名、啓発イベント観光ワーキンググループに1名の計3名の役員を出し活動しています。

(2)「田熊石畑史跡整備基本計画」ワーキンググループというのがあり、跡地をどう活用するかメンバーに2名参加しています。

(3)市役所に提案している件では、市内の遺跡に行く道案内の標識等がないため、検討・現地調査している。

5、ガイドの研修会

ガイドの知識向上やボランティアの意識向上については、年2回ほど有識者の講座を開いたり、他の団体の講演会に参加する機会を与えたり、会員による研究発表会やガイド研修などを行っています。

(問題点)

1、会員の募集です。

一年に8回、ボランティアの養成講座を開催し、その受講生に会員になってもらうという形式でやっています。今まで5年間やってきて、会員が46名、そのうち女性が12名、ほとんどが定年退職者なので常勤者もいますが、例会などに出られる人は30名、実際にガイドに参加できる人は15名ほどです。このボランティアの養成講座は、今のところ市からの助成を受けて開催しています。これからも続けるつもりです。応募の方法は、宗像タウンプレスという月2回発行の市の広報誌に載せてもらっており、毎年12名ほどの応募があります。

2、会の事務局がいる。

外部からの郵便や電話の受付は、観光協会や市を経由して私の自宅に届くシステムとなっており、タイムラグがあります。資料の保管場所に着いても観光協会や自宅などに置いており、困っております。

3、会の運営資金がいる。

われわれ、会の収入としては、皆さんから頂く年会費、それから観光協会などからの依頼で行なう定期ガイドの受託料、観光バスなどからいただくガイド料といったところです。

支出としては、ガイド時の交通費、ガイド待機用のテント費用、維持費、事務用品費などです。

また、会員が増えてユニホームの購入費に困ったり、将来的には備品を買う積み立て金の調達に困ると思っています。

4、市や主催者からの支援の継続

(1)宗像市からの支援

ボランティア養成講座の受託、養成講座の文化財講師の派遣、市からバスの提供、会場の無償提供など。

(2)観光協会からの支援

郵便、電話の受付、資料保管の倉庫の提供など。

5、市の担当窓口とのコミュニケーション

市の担当課は窓口が多く、意思の疎通がうまくゆかないこともあります。